

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	34	学校名	県立鉾田第一高等学校						課程	全日制課程		学校長名			飯山 美都子			
教頭名	荒井 孝幸											事務（室）長名			佐藤 健一			
教職員数	教諭	50	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	4	技術職員等	4	計	72	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女								
	普通科		95	133	121	118	120	119			336	370	18					

2 目指す生徒像

高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒
グローバルな視点と行動力をもった生徒

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針
（グラデュエーション・ポリシー）

- ①自ら目標を立て、学び続けることができる人材の育成
 - ②社会の課題と自分事として捉え、行動に移すことができる人財の育成
 - ③礼節を備えた骨太のグローバルリーダーの育成
- <本校生の未来の例>
- ・公的な機関で社会を支える
 - ・医療従事者として社会を支える
 - ・起業して社会を支える

別紙様式 1 (高)

	・企業内のリーダーとして社会を支える
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応する ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身につけさせる (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施)
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①様々な分野に興味をもち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②課題を見いだし、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③他者と協働し、目標の実現に向けて、壁を乗り越え、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・数学を中心に、少人数授業・習熟度別授業や家庭学習の課題において、生徒の理解度に合わせた取り組みを設定しており、約7割の生徒は基礎的基本的な学習に対して意欲的に取り組んでいる。 ・多くの教科において、基礎的基本的な知識・技能の定着を図った上で、主体的・対話的で深い学びを推進するための取り組みが進みつつある。 ・授業におけるICTの有効活用が充実してきており、生徒のICTを用いた学習への意欲は高まってきている。	・基礎事項の学習だけでなく、生徒の思考力、判断力の向上に繋がるICT機器の活用方法の研究。 ・より深い学びに繋がる課題解決重視型授業の研究。 ・対話的な学びと個別最適な課題の設定を両立させるシステムの構築。 ・生徒各々が自分自身の学習の理解度や学習状況についてメタ認知し、学習方法を改善していく力を育成するためのポートフォリオや振り返り等の活用方法の研究。
進路指導	・約9割の生徒が大学進学を希望しているが、目的意識が希薄なまま、安易に進路選択をしている生徒も見受けられる。	・自己の将来の在り方生き方を含めた進路意識の高揚を図り、多様な進路希望に対応できるよう単位制の利点を活かしたきめ細かい指導

別紙様式 1 (高)

	・学校推薦型選抜や総合型選抜で早めに進路先を決めようとする安全志向が強く見られる一方で、難関大学にチャレンジする生徒、国公立大学の後期試験まで諦めずに受験する生徒も多い。 ・国公立大学に53名が合格し、その内県内国公立大学に30名の生徒が合格した。 ・私立大学には延べ 417 名が合格し、都内難関私立大学(G-MARCH 以上)に 15 名が合格した。	体制の構築。 ・大学入学共通テストについての情報収集、思考力を高める指導による得点力のアップ、および国公立二次試験や私立個別試験に向けた指導の充実。 ・最後まで第一志望を諦めず、主体的に目的意識をもった進路決定に繋がる支援。 ・小論文指導や面接指導の充実による様々な入試方式への対応。
生徒支援	・素直で真面目な生徒が多く、概ね落ち着いた学校生活が送れているが、公共心に欠ける生徒が若干みられる。 ・所定の手続きを踏まずに、アルバイトなど校外で活動してしまう生徒がみられる。 ・スマートフォンの利用は、概ね適切になされているが、「ながらスマホ」や「スマホ依存」の生徒がみられる。 ・悩みを抱える生徒が増加傾向にあり、組織的な心のケアが必要である。 ・通学時及び通学時以外においてバイクでの交通事故が発生している。	・自己指導能力を育むための支援を継続。 ・所定の手続きについての周知の徹底。 ・マナー、モラル、ルールを守ったスマートフォンの適切な利用についての指導の継続。 ・教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー等の専門家による支援およびチーム銚一での支援。 ・ホームルームで定期的な交通安全指導の実施。
開かれた学校	・ホームページやフェイスブックで常時最新の情報発信を行っている。 ・スクールガイド等の作成やオープンキャンパス、学校公開授業を通じての広報活動を行っている。	・学校評議員制度の活用やホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫し、家庭・地域社会との連携を目指したより効果的な活動。
働き方改革	・令和7年度は、在校等時間が月 45 時間を超える教員の割合は 17.37%、月平均在校等時間は約 28 時間であった。I	・業務内容や教材の共有化、I C T機器の効率的な活用。業務の見直しと精選によるスクラ

別紙様式 1 (高)

	C Tの活用や業務の効率化を図り、働き方改革を更に進めていく必要がある。	ップ&ビルド。 ・協働的業務運営により、教員が生き生きと働ける体制の構築。ラインケア、セルフケアによる高ストレスの軽減。
--	--------------------------------------	--

5 中期的目標

・ I C Tの活用を含めた教科指導の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ・ 確かな学力を身につけさせるため、カリキュラムの検証を図り、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。 ・ キャリア教育や探究活動に重点をおいた教育を展開し、自己の生き方や在り方に対する考えを深め、様々な課題に向き合い、挑戦する力を育む。 ・ 学校行事や部活動・特別活動をととして、主体性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。 ・ 広報活動の充実や学校評議員制度の活用など家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。 ・ 教職員一人一人が勤務時間についての意識改革に努める。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力・授業の質の一層の向上	・ I C Tを活用した効果的な授業を展開する。 ・ 対話的で主体的な学びを推進する。 ・ 探究活動の充実を図る。
個に対応した指導の充実	・ 個別最適化された学習支援の充実を図る。 ・ 多様な学習スタイルへの対応を促進する。 ・ 多様な進路選択を可能とする教育環境の整備を進める。
進路意識・進路実績の一層の向上	・ 本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚お

別紙様式 1 (高)

	よび進路目標の達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・多様な入試方式に対応するため、大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し正確な情報収集を行い、進路支援に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。
特別活動・部活動の一層の活性化	・生徒の自主的な運営をサポートすることで、学校行事へのより積極的な参加を促す。 ・学校行事後の反省を次年度に向けて有効活用するためのシステムを構築する。 ・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。 ・部活動の価値を再認識させ、新入生の加入率を上げるように工夫する。
自己指導能力の育成	・日頃から生徒と接する機会を多くもち、生徒と教員が相談しやすい関係を構築するとともに、生徒理解に努め、すべての教育活動をとおして生徒の観察等を行うことで、変化を敏感に察知し、適宜、適切な支援を講じる。
学校評価の充実	・データに基づく客観的で多角的な評価の強化を促進する。 ・教職員による学校自己評価に基づく改善を促進する。 ・学校と家庭・地域社会の連携を強化する。
働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。業務の見直しと精選を行い、スクラップ&ビルドを積極的に推進する。 ・I C T活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・時間外在校等時間、月平均時間35時間以内、月平均45時間超過者割合15%、月平均80時間超過者割合0 %をめざす。
授業改善	・生徒による授業評価アンケートにおける「先生はI C Tや板書、資料などを効果

別紙様式 1 (高)

	的に活用する等、教え方を工夫している。」の質問項目で、校内の平均値3.6以上を維持するため、授業改善を促進する環境を整備する。
--	---